

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												狂犬病	ProMED-mail20080826.2660	1990年から2007年の中国における狂犬病発生傾向を調べた研究によると、最近8年間でヒト狂犬病症例数が急激に増加したことが明らかとなった。ヒト狂犬病は1990年から1996年の間は全国的な狂犬病ワクチン接種プログラムにより抑制され、わずか159症例が報告されただけであるが、2006年は3279症例と激増した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	263Kスクレイピーの臨床症状を呈するハムスター22匹の尿にTSE感染性があることが示された。これらの動物の腎臓と膀胱のホモジネートは20000倍以上希釈してもTSE感染性があった。組織学的、免疫組織化学的分析では、腎臓における疾患関連PrPの散発的な沈着以外、炎症や病変は見られなかった。尿中のTSE感染性が、自然のTSEの水平感染に何らかの役割を果たす可能性がある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/Press Releases 2008年8月28日	Blood誌のprepublished onlineに掲載されたヒトツジにおける研究によると、輸血によるBSE伝播のリスクは驚くほど高い。エジンバラ大学で行われた9年間の研究は、BSEまたはスクレイピーに感染したヒトツジからの輸血による疾病伝播率を比較した。その結果、BSEおよびスクレイピーとも輸血によりヒトツジに効率よく伝播された。症状を呈する前のドナーから採取された血液によっても伝播することが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2008; 134: 757-768	マウスPrPScと混合させることによって折り畳み異常が起こったハムスターPrPCは、野生型ハムスターに対して感染性を起こす新規なプリオンを生成した。同様の結果は、反対方向でも得られた。PMCA増幅を繰り返すとin vitro産生プリオンの順応が起こる。このプロセスは、in vivoでの連続継代に観察される株の安定化を暗示させる。種の壁と株の生成がPrP折り畳み異常の伝播によって決定されることが示唆される。
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	インフルエンザ様疾患の小児の呼吸分泌物中から、汎ウイルスマイクロアレイ法を用いて、初めてヒトカルディオウイルスを同定した。系統遺伝学的分析から、このウイルスはTheilerのネズミ脳脊髄炎ウイルス型に属し、Saffoldウイルスと最も近縁であった。また、胃腸疾患患者群498名から得た751例の糞便検体中6検体からカルディオウイルスが検出された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	非定型BSE(BASE)に感染した無症候のイタリアの乳牛の脳ホモジネートをカニクイザルに脳内接種した。BASE接種サルは生存期間が短く、古典的BSEまたはvCJD接種サルとは異なる臨床的展開、組織変化、PrPresパターンを示した。感染牛と同じ国の孤発性CJD患者でPrPが異常なウエスタンプロットを示す4例のうち3例のPrPresに同じ生化学的特徴を認めた。BASEの霊長類における高い病原性および見かけ上孤発性CJDである症例との関連の可能性が示唆された。
												ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	南アフリカとザンビア出身者の最近の死亡例3例はアレナウイルス科のウイルスが原因あることが、NICDおよびCDCで行われた検査の結果明らかとなった。詳細な分析が継続されている。一方、南アフリカでは患者と密接に接触した看護師が感染し、入院中である。
356	2009/02/12	80896	アステラス製薬	バミテプラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED-mail20080707.2061	カザフスタンのKyzylordinsky地区で2008年7月1日に、暫定的に炭疽と診断され入院した35歳の男性は、7月3日に死亡した。この患者は病気の雌牛を屠殺していた。7月2日には同じ牛の屠殺に参加していた更に2名が炭疽の疑いで入院した。この2名の状態は順調である。
												炭疽	ProMED-mail20080708.2080	ベトナムHa Giang省で、2008年6月下旬に炭疽に感染した牛肉を食べた後、約420名が中毒となった。同省の予防保健センターは、感染した人々はMeo Vac地方のPo Qua村の約90家族であると発表した。2008年6月21日に、死因不明の雌牛の牛肉を食べた2家族が感染し、6月29日に2名が死亡し、3名が危篤である。
												炭疽	ProMED-mail20080716.2161	2008年7月14日現在、キルギスタン南部で、ヒトにおいて炭疽症例9例が確定され、34名が炭疽の疑いで入院中である。確定例のうちの1例である78歳男性は2008年7月10日に死亡した。この患者は感染した動物を屠殺した後、発病したが、数日間家で過ごし、7月9日に病院に行った時には手遅れであった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20080718.2185	2008年7月15日、キルギスタン南部で、汚染した牛肉を食べた後、6名が炭疽で入院したと、当局が発表した。計167名が感染した牛肉を食べたことが判明している。うち危篤状態の6名は炭疽であることが確定された。他の161名の状態は観察中である。このアウトブレイクは南キルギスタンで約1ヶ月のうちに2番目のアウトブレイクである。
												炭疽	ProMED-mail20080806.2419	2008年7月31日、カザフ緊急対策省は、炭疽による患者死亡を報告した。7月28日にカザフスタン南部のLenkor町の病院に入院した38歳男性は、集中治療にもかかわらず7月30日に死亡した。この患者は病気のウシの屠殺中に炭疽に感染した。
												炭疽	ProMED-mail20080918.2925	2008年9月16日共和国緊急省は、キルギスタン南部で炭疽の2つのアウトブレイクが報告されていると発表した。この致死病的疾病はBatken地域で小児数名を含む14名で確定されている。全員が病気のウシを処分した後に感染した。Jalal-Abad地域では炭疽の症状を示した6名が入院中である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080926.3051	スペイン保健省は、ヒト型狂牛病で死亡したスペイン人男性の母親もまた同じ疾病で死亡したと発表した。同じ家族で2名が狂牛病で死亡したのは世界で初めてと思われる。母親は60代初めで、2008年8月に死亡し、2008年9月24日に狂牛病が原因であったことが確定された。彼女の息子は2008年2月に同じ病気で死亡していた。2005年以降、スペインでは計4例の狂牛病確定例が報告されている。
												炭疽	ProMED-mail20081116.3621	2008年11月14日付けZimbabwe Tribuneによると、ジンバブエ西部のMatabeleland North省 Lupane地域で炭疽のアウトブレイクが有、少なくとも6人と200頭以上のウシが死亡した。感染したウシの肉を食べた村人数名が治療を受けている。
												炭疽	ProMED-mail20081117.3631	ジンバブエ西部のMatabeleland North省 Lupane地域では最近の炭疽のアウトブレイクの後、3000頭以上のウシが炭疽に対するワクチンを接種された。2008年11月14日、当局は前の報告とは異なり、ウシ147頭が死亡し、2人が死亡したと明らかにした。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20081128.3751	炭疽がジンバブエ南部を襲い、住民と家畜の生命を脅かしている。Matabeleland North省当局は炭疽による死者は2名と確定したが、Lupane近くのDongamuzi地区では6人と200頭以上のウシが死亡したとChronicle新聞は報告した。ジンバブエ第2の都市Bulawayoでは大部分の人がLupanaのような田舎の動物の肉を買うため、アウトブレイクが重大な関心事となっている。
												炭疽	ProMED-mail20081201.3774	コレラの流行と混合して炭疽のアウトブレイクはジンバブエを最悪にしていると国際援助機関は2008年12月1日に警告した。ジンバブエ北西部辺境ではヒトでの感染32例および死亡3例が報告されている。炭疽により家畜150頭、ゾウ2頭、カバ70頭および水牛50頭が既に死亡した。同地区では6万頭のウシが死亡する恐れがある。
357	2009/02/12	80897	アステラス製薬	バミテブラーゼ(遺伝子組換え)	トランスフェリン	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED-mail20080707.2061	80896に同じ
												炭疽	ProMED-mail20080708.2080	80896に同じ
												炭疽	ProMED-mail20080716.2161	80896に同じ
												炭疽	ProMED-mail20080718.2185	80896に同じ
												炭疽	ProMED-mail20080806.2419	80896に同じ
												炭疽	ProMED-mail20080918.2925	80896に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080926.3051	80896に同じ
												炭疽	ProMED-mail20081116.3621	80896に同じ
												炭疽	ProMED-mail20081117.3631	80896に同じ
												炭疽	ProMED-mail20081128.3751	80896に同じ
												炭疽	ProMED-mail20081201.3774	80896に同じ
358	2009/02/12	80898	アステラス製薬	パミテプラゼ(遺伝子組換え)	CHO細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	—	製造工程	無	無	無			
359	2009/02/13	80899	アボット・ジャパン	レビパリンナトリウム	レビパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜ヘパリン	中国	有効成分	無	無	無			
360	2009/02/16	80900	日本生物製剤	ヒト胎盤抽出物	ヒト胎盤抽出物	ヒト胎盤	日本	有効成分	有	無	無	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2008; 57(29): 799-801	2008年4月15日に臓器調達機関が、同一のドナーからの腎移植レシピエント2例が重症となり、うち1例が死亡したとCDCに通知した。2008年4月22日の検査結果から、ドナーとレシピエント2名は全員リンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)陽性で有、ドナーからの伝播であったことが確認された。移植前にはHIV、HBV、HCVなどの標準的なドナースクリーニング検査は行っていたが、LCMVの検査は行っていなかった。
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	米国ミネソタ州の68歳男性が、2007年10月12~21日に手術後の輸血を受け、敗血症および多臓器不全をきたした後、10月31日に発熱を伴う急性血小板減少症を発現し、11月3~5日の血液検体からPCR及び抗体検査でアナプラズマ症感染が確認された。血液ドナーの1人にA.phagocytophilum陽性がPCR及びIFA検査で確認され、血液ドナーに感染源が確認された初の事例となった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC/MMWR 2008; 57(42): 1152-1154	日本のCJDサーベイランスグループの調査によると、死体硬膜移植片(大部分がドイツ製品Lyodura)に関連したCJDと同定された症例数は1996年には43例であったが、2008年には132例に増加した。132例全員が1978～1993年に硬膜移植を受けており、1985年9月から2006年10月に発症した。発症時の平均年齢は55歳(18～80歳)で、潜伏期間中央値は12.4年で、最長24.8年であった。
												細菌感染	HPA/Health Protection Report 2(43) 2008年10月24日	2007年1月1日～12月31日に英国中の血液センターからNHSBT/HPA TTIサーベイランスにTTIが疑われる報告が25件有、調査の結果、3件(全て細菌)がTTIと判定された。3件中2件は赤血球輸血に関連、1件は血小板輸血に関連していた。21件はTTIではないと判定され、CMVの1例は調査が完了していない。赤血球のレシピエントにおいて細菌のTTIが確認されたのは1999/2000年以降初めてである。
361	2009/02/17	80901	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	溶連菌抽出物注射用	—	有効成分	無	無	無			
362	2009/02/17	80902	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	牛肉	ウシ骨格筋	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
363	2009/02/17	80903	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	ペプトンN粉末	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
364	2009/02/17	80904	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
365	2009/02/17	80905	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	Bacto Todd Hewitt Broth	ウシ心臓、骨格筋、骨髄、脂肪組織、結合組織、乳、ブタ心臓、膵臓、胃	ウシ:心臓(米国)、骨格筋(米国、オーストラリア)、脂肪組織(米国)、骨髄(米国)、結合組織(米国)、ブタ:心臓、膵臓、胃(米国、イタリヤ、カナダ)	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	FDA/CDER Meeting of the Antiviral Drugs Advisory Committee 2008年12月2日	FDAの抗ウイルス剤諮問委員会はSolvay社のCreon (Pancrelipase徐放剤、NDA20-725)およびその他の膵酵素製品(PEPs)がブタ由来であることから、ブタウイルスによるヒトへの感染リスクについて検討した。今までにヒトにおける感染が発生したとのエビデンスはないが、全てのブタ由来PEPは動物のウイルスを含有し、ヒトにおける感染のリスクをもたらす可能性があるというラベルに記載すべきであると勧告した。
												エボラ出血熱	OIE Press Release 23Dec2008	ブタにおけるEbola-Restonウイルスの初めての検出:フィリピンにおいてブタからEbola-Restonウイルスが検出されたことを受けて、フィリピン政府がFAO、OIEおよびWHOに専門家の派遣を要請した。2007年および2008年にNueva EcijaおよびBulacanの農場においてブタの死亡が増加したことからフィリピン政府による調査が開始され、ブタ繁殖・呼吸器障害症候群(RRRS)およびEbola-Restonウイルス感染が確認された。フィリピンのサルにおいては感染が確認されている。
366	2009/02/17	80906	中外製薬	エポエチン ベータ(遺伝子組換え)	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	ブタ膵臓	米国、カナダ、デンマーク、英国、ドイツ、オランダ、ポルトガル、ベルギー、フランス、アイルランド、スペイン、ハンガリー、韓国	製造工程	有	無	無	中毒	厚生労働省医薬食品局 食品安全部 監視安全課 輸入食品安全対策課 (2008/12/8)	2008年12月8日、アイルランド政府より、アイルランド国内におけるモニタリング検査において、豚肉から欧州委員会の設定する基準値を超えるダイオキシンが検出されたため、2008年9月以降に食肉処理されたすべてのアイルランド産豚肉等について回収措置を講じるとの通報があった。アイルランド政府は養豚用の家畜飼料がダイオキシンに汚染されていたことが原因としている。
												ウイルス感染	FDA/CDER Meeting of the Antiviral Drugs Advisory Committee 2008年12月2日	FDAの抗ウイルス剤諮問委員会はSolvay社のCreon (Pancrelipase徐放剤、NDA20-725)およびその他の膵酵素製品(PEPs)がブタ由来であることから、ブタウイルスによるヒトへの感染リスクについて検討した。今までにヒトにおける感染が発生したとのエビデンスはないが、全てのブタ由来PEPは動物のウイルスを含有し、ヒトにおける感染のリスクをもたらす可能性があるというラベルに記載すべきであると勧告した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	OIE Press Release 23Dec2008	ブタにおけるEbola-Restonウイルスの初めての検出：フィリピンにおいてブタからEbola-Restonウイルスが検出されたことを受けて、フィリピン政府がFAO、OIEおよびWHOに専門家の派遣を要請した。2007年および2008年にNueva EcijaおよびBulacanの農場においてブタの死亡が増加したことからフィリピン政府による調査が開始され、ブタ繁殖・呼吸器障害症候群(RRRS)およびEbola-Restonウイルス感染が確認された。フィリピンのサルにおいては感染が確認されている。
367	2009/02/17	80907	中外製薬	エボエチン ベータ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン(BSA)	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
368	2009/02/19	80908	旭化成ファーマ	トロンボモデュリンアルファ(遺伝子組換え)	トロンボモデュリンアルファ(遺伝子組換え)	ヒト成人肺組織及びヒトさい帯内皮細胞由来 cDNAを組み込んだチャイニーズハムスター卵巣細胞	米国	有効成分	無	無	無			
369	2009/02/19	80909	旭化成ファーマ	トロンボモデュリンアルファ(遺伝子組換え)	抗トロンボモデュリンアルファマウスモノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ細胞をマウス腹腔内に接種して得られた腹水	米国	製造工程	無	無	無			
370	2009/02/19	80910	旭化成ファーマ	トロンボモデュリンアルファ(遺伝子組換え)	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
371	2009/02/19	80911	大塚製薬工場	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	フィブリノリジン	牛の血漿	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
372	2009/02/19	80912	大塚製薬工場	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	デオキシリボヌクレアーゼ	牛の脾臓	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
373	2009/02/20	80913	シェリン グ・ブラウ	ヒト絨毛性腺刺激ホルモン(日局)	ヒト絨毛性 性腺刺激ホ ルモン(日 局)	妊婦尿	ブラジル	有効成分	有	無	無	デング熱	ProMED 20080701.2005 JUL.2008	2008年、バイーア州においてデング熱症例30,000例以上が記録されており、2007年同時期と比較して224%増加した。死亡症例は6件であった。また、リオデジャネイロにおいても195,000件が登録され、死亡例は142件であった。
												ウイルス感染	The Mercury Oct.12 2008	南アフリカおよびザンビアにおけるアレナウイルス科の新規ウイルス:南アフリカの国立感染症研究所は、米国CDCが以下の疾患患者3例について病原因子を特定するための検査を行い、新型のウイルスを突き止めたことを発表した。ザンビアに居住する会社員で治療のため南アフリカに移動し2008/9/14死亡(初発症例)。初発症例の介護をした2名でヨハネスブルグの病院でそれぞれ10/2と10/5に死亡。
												デング熱	ProMED20081028- 3398 Oct28,2008	セアラ州におけるデング熱の検査確認症例は41,172例、死亡症例は16例である。1986年以来、1994年の47,789例について2番目に大きい流行である。州都フォルタレーサでセアラ集の検査確認症例の74.4%が発生した。
												デング熱	ProMED 20081104- 3459 Nov04,2008	リオデジャネイロ州においてデング熱が大発生しており2008年10月29日までに登録されたデング熱症例は25,0026(死亡確定症例181例を含む)で有、他にデング熱による死亡が疑われる143件について調査中である。
	2009/02/20	80914	シェリン グ・ブラウ	インターフェロンアルファ-2b(遺伝子組 換え)	人血清アル ブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	ウエストナイル ウイルス	Emerg Infect Dis 14:804-807 May2008	ハリケーン被害地域(ルイジアナ州およびミシシッピ州)の2006年のウエストナイルウイルス感染発生率は2002-2005年の平均発生率と比較して2倍以上に増加した。
												デング熱	ProMED 20080701.2005 JUL.2008	2008年、バイーア州においてデング熱症例30,000例以上が記録されており、2007年同時期と比較して224%増加した。死亡症例は6件であった。また、リオデジャネイロにおいても195,000件が登録され、死亡例は142件であった。
												ハンタウイルス	ProMED 20080714- 2139 Jul14, 2008	ロシア(バシコルトスタン共和国)において腎症候性出血熱(HFRS)に400人以上が感染し、2例が死亡した。400例は2007年に記録された症例数のほぼ2倍である。同共和国領域は世界でも有数のHFRSウイルス分布の高い流行地域で有、感染率のピークは赤ハタネズミの個体数増加と一致すると予想された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2008; 57(29): 799-801	2008年4月15日に臓器調達機関が、同一のドナーからの腎移植レシピエント2例が重症となり、うち1例が死亡したとCDCに通知した。2008年4月22日の検査結果から、ドナーとレシピエント2名は全員リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)陽性で有、ドナーからの伝播であったことが確認された。移植前にはHIV、HBV、HCVなどの標準的なドナースクリーニング検査は行っていたが、LCMVの検査は行っていなかった。
												HIV	Associated Press Aug.15, 2008	コルドバ州の公立病院で輸血を受けた集中治療患者2名がHIV感染した。ドナーは2007年12月の献血時は陰性、再び献血した2008年5月に陽性が確認され、2007年12月の献血直前にHIVに感染したと思われる。
												トキソプラズマ・バルボウイルス感染	Ginekol Pol 79; 186-191 2008	ポーランドで急性トキソプラズマ症および急性バルボウイルス症の血清学的特徴が証明された妊婦の胎児に、胎児水痘症あるいは脳質拡大、胎児水腫、子宮内胎児死亡、羊水異常が見られた。
												A型肝炎	Eurosurveillance vol 13, 40, Oct.2, 2008	チェコ共和国保健保護庁によると、2008年5月以降チェコにおいてA型肝炎症例の増加が観察されており、年初から9月28日までに602例が報告され、2007年の同時期に8倍、2003～2007の各都市の同時期平均と比べて6倍であった。
												デング熱	N Engl J Med 359(14)1526-1527 Oct.2, 2008	シンガポールにおける輸血によるデング熱出血感染症: 2007年7月に献血をしたデング熱ウイルス(2型)無症候性ドナーから赤血球及び新鮮凍結血漿レシピエント(2例)がデング熱ウイルス(2型)陽性であることが判明し、血小板レシピエント(1例)も二次性デング熱感染について血清学的エビデンスがあった。
												デング熱	Bloomberg Oct.02, 2008	N Engl J Med 359(14) 1526-1527に掲載された報告によると、2007年シンガポールにおいて献血ドナーの52歳の男性から輸血された3例(62,72,74歳の男性)がデング熱ウイルスに感染した。3例の状態は良好である。
												ウイルス感染	The Mercury Oct.12 2008	南アフリカおよびザンビアにおけるアレナウイルス科の新規ウイルス: 南アフリカの国立感染症研究所は、米国CDCが以下の疾患患者3例について病原因子を特定するための検査を行い、新型のウイルスを突き止めたことを発表した。ザンビアに居住する会社員で治療のため南アフリカに移動し2008/9/14死亡(初発症例)。初発症例の介護をした2名でヨハネスブルグの病院でそれぞれ10/2と10/5に死亡。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	CDC/MMWR 57(42),1145-1148 Oct.24,2008	輸血によるAnaplasma phagocytophilum感染、ミネソタ州2007年:64歳の女性ドナーおよび68歳男性レビエントからアナプラズマが検出され、赤血球製品輸血による感染が確認された。
												デング熱	ProMED mail20081118-3636 Nov18, 2008	デング出血熱、2008年最新情報-インドネシア(ジャワ):中部ジャワ州Banyumas県の衛生当局は2008年11月中旬までのデング熱症例551例が記録され、2007年と比べて症例数が2倍以上増加したことを報告した。死亡例は5件であった。
												デング熱	ProMED mail20081118-3636 Nov18, 2008	デング出血熱、2008年最新情報-米領サモア:2008年1月以降のデング熱の確定診断症例数が400例に達した(評価者注:2007年は109例)。うち死亡は1例である。
												ハンタウイルス	ProMED mail 20081120-3664 Nov20, 2008	腎症候性出血熱-ロシア(サマラ州):サマラ州の住人における腎症候性出血熱の症例数は2007年の3倍に増加し、2008年10月までの症例数は222例であった。調査によりヒトへの感染源であるげっ歯類の28%が感染していることが示された。
												デング熱	Thanh Nien News Nov.27, 2008	季節外れのデング熱症例の増加-ホーチミン市:ホーチミン市熱帯病院の副院長によると毎日30例から50例のデング熱症例を受け入れ150から200例を入院させている。市の保健当局高官によると2008年には14000例が記録され、2007年に比べて35%の増加であると述べた。
	2009/02/20	80915	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	血液凝固第Ⅷ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	リケツチア症	ProMED- mail20080728.2306	オランダ・ブラバント州の公衆衛生局が行った調査でQ熱の症例報告数が急激に増加し、2008年7月21日付で491症例が報告されている。感染症管理センター長によると、実際の感染者数は報告された症例数の10倍であると思われる。2007年まではQ熱はオランダではほとんど存在しなかった。
												ウイルス性脳炎	ProMED- mail20080828.2697	インド東部のウッタルプラデシュ州で小児を死亡させている原因不明のウイルスは、インド保健省の専門家らにより急性脳炎症候群と診断された。同州の13の地区では、数週間におよそ800人の患者が発生し150人が死亡したと報告され、その数は増加すると見られている。血液検査で日本脳炎陽性となった患者は5%以下であった。日本脳炎とエンテロウイルスとの混合感染の可能性について調査中である。
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	インフルエンザ様疾患の小児の呼吸分泌物中から、汎ウイルスマイクロアレイ法を用いて、初めてヒトカルディオウイルスを同定した。系統遺伝学的分析から、このウイルスはTheilerのネズミ脳脊髄炎ウイルス亜型に属し、Saffoldウイルスと最も近縁であった。また、胃腸疾患患者群498名から得た751例の糞便検体中6検体からカルディオウイルスが検出された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	2008年10月初旬に南アフリカでアレナウイルスによる感染のアウトブレイクが同定された。9月12日から10月24日までに計5例が報告され、5例中4例が死亡し、1例は入院中である。死亡した4例では発病から死亡まで9～12日間であった。塩基配列分析より、ユニークな旧世界アレナウイルスが原因であることが明らかとなった。現在のところ新たな疑い症例はない。
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	米国ミネソタ州の68歳男性が、2007年10月12～21日に手術後の輸血を受け、敗血症および多臓器不全をきたした後、10月31日に発熱を伴う急性血小板減少症を発現し、11月3～5日の血液検体からPCR及び抗体検査でアナプラズマ症感染が確認された。血液ドナーの1人にA. phagocytophilum陽性がPCR及びIFA検査で確認され、血液ドナーに感染源が確認された初の事例となった。
374	2009/02/20	80916	化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ 人免疫グロブリン フィブリノゲン加第Ⅲ因子 乾燥濃縮人活性化プロテインC ヒスタミン加人免疫グロブリン製剤 トロンビン 乾燥スルホ化人免疫グロブリン 人血清アルブミン 乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	中国、フランス、米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
375	2009/02/20	80917	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン	初代腎臓培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
376	2009/02/20	80918	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥組織培養不活性化狂犬病ワクチン	ラクトアルブミン	ウシ乳	オーストラリア、米国、ニュージーランド、カナダ	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
377	2009/02/20	80919	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	血清	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
378	2009/02/20	80920	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	筋アデニル酸	ウマ肉	米国	①～③製造工程・添加物 ④製造工程	無	無	無			
379	2009/02/20	80921	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ③沈降破傷風トキソイド ④ジフテリア破傷風混合トキソイド ⑤ジフテリアトキソイド ⑥コレラワクチン ⑦乾燥ジフテリアウマ抗毒素 ⑧乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 ⑨沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ⑩破傷風トキソイド	ペプトン	ブタ胃	日本、米国	①添加物 ②～⑩製造工程	無	無	無			
380	2009/02/20	80922	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	ニュージーランド、オーストラリア	①～③製造工程・添加物 ④製造工程	無	無	無			
381	2009/02/20	80923	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	エリスロマイシンラクチビオン酸塩	ウシ乳	米国、カナダ、オランダ、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
382	2009/02/20	80924	エール薬品	ダルテパリンナトリウム	血液凝固阻止剤	豚小腸	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	神経系障害	Health Protection Report Vol.2.No32 2008年8月8日	米ミネソタのブタ処理施設における神経疾患症例のクラスターに関する継続調査。米国処理施設の調査で3施設のみにおいて脳組織を摘出するための圧縮空気技術の使用が確認され、3施設全てで合計施設労働者24名の進行性炎症性神経障害(PIN)発症が確認されている。作業仮説は依然として、これらの労働者神経障害を引き起こす自己免疫反応の進行を導く細かい霧状の脳組織に暴露された、ということである。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	IDWR感染症週報 2008年第36週	1999年4月(感染症法施行)～2008年第26週に都道府県から報告された288例のうち、国内感染例218例、男性177例、女性41例である。感染経路は経口感染があり、飲食物の記載があったものは111例で、内訳はブタ47例、イノシシ24例、シカ15例である。予防は肉や内臓を充分加熱することである。
												レンサ球菌感染	IASR 2008:Vol. 29: No9 2008年9月	食品加工ブタ内臓処理を業務とする従業員の男性(68歳)に発症した細菌性髄膜炎においてStreptococcus suisが同定された。本菌感染と職業との関連が推定されたが、具体的な感染経路は不明である。また、ヒト-ヒト感染は確認されていない。
												インフルエンザ	ProMEDmail200811 25.3715	米国CDCは国内の季節性インフルエンザの活動性に関する最新情報1例を報告した。テキサス保健当局に報告された情報によると患者は2008年10月中旬にブタとの数回接触後、ブタインフルエンザウイルスA/H1N1に感染した。当局は疾患の詳細は把握していないが、患者の家族又は接触者には発症していない。
												インフルエンザ	CDC/MMRW 57(49)1329- 1332/2008.12.12	米国2008年9月28日～11月29日におけるインフルエンザウイルスの活動性に関する報告。新規のインフルエンザウイルスに感染したヒト症例1例(14歳)がTexasから報告された。ブタとの数回接触後、ブタインフルエンザウイルスA/H1N1に感染した。症例は回復し、患者の家族又は接触者には発症していない。
												エボラ出血熱	ProMEDmail 20090123.0293	フィリピンにおいて少なくとも一人が検査でEbola-Restonウイルス陽性:Ebola-Restonウイルス感染は2008年に2ヶ所のブタ農場で発見され、これらの農場の労働者50人以上がウイルスに曝露したが、検査陽性は1例のみで有、症状は出していない。ブタからヒトへの感染は今回が初めて。2009年1月23日
												黄色ブドウ球菌感染	ProMEDmail 20090126.0348	米国Iowa大学公衆衛生学Tara Smith教授はブタ生産システム会社からMRSA ST398株がブタとヒトにおいて発見され、ブタ-ヒト間の伝搬が示唆されたことを報告した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
383	2009/02/23	80925	日本製薬	①加熱人血漿たん白 ②人血清アルブミン(5%) ③人血清アルブミン(20%) ④人血清アルブミン(25%) ⑤乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン ⑥トロンビン ⑦乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ ⑧人免疫グロブリン ⑨乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	ヘパリン	ブタ腸粘膜	ブラジル	①～⑧製造工程 ⑨添加物・製造工程	無	無	無			
384	2009/02/24	80926	日本ケミカルリサーチ	注射用ミリモステム	ミリモステム	ヒト尿	中国、台湾	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Ann Neurol 2008; 63: 697-708	米国の国立プリオン病病因調査センターに2002年5月から2006年1月に紹介された患者11名(平均発症年齢62歳)を調べたところ、海綿状変性の型、PrP免疫染色パターンおよびマイクロブラクの存在が、既知のプリオン病とは異なり、通常の方法では典型的なプロテアーゼ抵抗性PrPは検出されなかった。我々はこれらをプロテアーゼ感受性プリオン病(PSPr)と名付けた。PSPrは、プリオン病の中では稀ではなく、我々のデータが示すよりもさらに多い可能性がある。
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	インフルエンザ様疾患の小児の呼吸分泌物中から、汎ウイルスマイクロアレイ法を用いて、初めてヒトカルディオウイルスを同定した。系統遺伝学的分析から、このウイルスはTheilerのネズミ脳脊髄炎ウイルス亜型に属し、Saffoldウイルスと最も近縁であった。また、胃腸疾患患者群498名から得た751例の糞便検体中6検体からカルディオウイルスが検出された。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2007; 45: 2144-2150	米国で1981年11月に原因不明の発熱を呈した8ヶ月の女児の大便検体から同定されていない病原体を培養し、単離したウイルスのヌクレオチド配列を調べたところ、Theilerの Maus 脳脊髄炎ウイルスと高い相同性を示した。ウイルスゲノムのほぼ全長配列と系統遺伝学的解析から、このウイルスはピコナウイルス科カルディオウイルス属であることが明らかとなった。この新規のウイルスをSAF-Vと命名した。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 834-836	カナダにおいて、Saffoldウイルスに関連するカルジオウイルス分離株が呼吸器症状を有する3名の子供からの鼻咽頭吸引物から検出された。Can112051-06分離株のポリプロテイン配列は、Saffoldウイルスと91.2%のアミノ酸同一性を有した。しかし、ウイルス表面のEF及びCDのループは、かなり異なっていた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1398-1405	ドイツとブラジルの全年齢群の胃腸炎患者由来の大便検体844例においてSaffold様ウイルスに関するシステムティック分子スクリーニングを行った。その結果、6歳未満の患者で6つのカルディオウイルスが同定され、6名中4名では共感染していた。大流行パターンに関するエビデンスは得られなかった。系統遺伝学的解析の結果、3つの異なった遺伝的系統が同定された。2大陸で非常に近い株が見つかったことから、ヒトにおける世界的な分布が疑われる。
												デング熱	Am J Trop Med Hyg 2008; 79: 495-504	2001年および2002年の台湾南部におけるデング熱アウトブレイクでは、2002年の方が感染症例数および重症度とも増加した。重症化を伴ったウイルス進化を調べるため、流行時の患者31名(デング熱14名、デング出血熱17名)の血漿由来のデングウイルス2型配列を調べた。エンベロップおよび全ゲノム配列解析の結果、2つのアウトブレイクのウイルス間で4つの遺伝子における5つのヌクレオチド変化が明らかとなり、2002年ウイルスは2001年ウイルスのマイナー変異株由来であることが示された。
												結核	第117回日本結核病学会東北地方会(2008年9月20日)	38.5°Cの発熱を主訴とし来院した54歳男性は胸部X線写真ですりガラス陰影を認め、尿中レジオネラ抗原陽性のため、レジオネラ肺炎と診断された。患者喀痰からL.rubrilucens、温泉水からL.rubrilucensとL.pneumophilaの2菌種が分離された。尿中抗原検査はL.pneumophila陽性を示し、患者はL.rubrilucensとL.pneumophilaの複合感染と推定された。L.rubrilucensが同定された国内外初めての肺炎症例である。
385	2009/02/24	80927	日本ケミカルリサーチ	注射用ミリモスチム	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	有	無	無	チクングニヤウイルス感染	J Gen Virol 2008; 89: 1945-1948	2007年にチクングニヤウイルス(CHIKV)の新たな広範囲のアウトブレイクがあったインドのケララ州の3つの最悪感染地区で収集された分離株ウイルスについて、遺伝子配列の解析を行った。その結果、糖蛋白エンベロップ1(E1)遺伝子の配列に、ヒトスジシマカにおけるCHIKV感染性を上げるとされるA226V変異が認められた。
												狂犬病	Emerg Infect Dis. 2008 Dec (Epub ahead of print)	新たな狂犬病ウイルス変異体の同定: アメリカのカリフォルニアで狐にかまれたメキシコ移民男性が2008年3月に死亡した。脳のサンプルから単離したウイルスの塩基配列の解析より昆虫食コウモリの狂犬病ウイルスクレイドの特徴的分子構造を有するが、遺伝的多様性としては5%有、高度に保存された321番目のヒスチジンがグルタミンに変異していることから、新たな狂犬病ウイルスとして分類した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ハンセン病、らい腫型	Am J Clin Pathol, 130: 856-864,2008	広範性らい腫らい(DLL)により死亡した患者からMycobacterium属の新種が確認された: DLLにより死亡した1症例から肝組織、他の1症例から皮膚組織から抗酸菌のDNAを抽出し16Sribosomal RNA遺伝子および他の5つの遺伝子の相同性を解析した。その結果、らい腫(M. leplae)と共通の起源ではあるが、そこから分岐した別のmycobacteriaであることからM. lepromatosisと命名した。
386	2009/02/24	80928	バクスター	ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞株	—	有効成分	無	無	無			
387	2009/02/25	80929	CSLベリング	人C1-インアクチベーター	人C1-インアクチベーター	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1342-1347	高力価の培養デングウイルス セロタイプ2をアルブミンおよび免疫グロブリンの各種製造工程(低温エタノール分画、陽イオン交換クロマトグラフィー、低温殺菌、S/D処理およびウイルスろ過)前の検体に加え、各工程での同ウイルスのクリアランスをVero E6細胞培養におけるTCID50アッセイおよびRT-PCRで測定した。その結果、全ての工程が不活化・除去に有効であることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/Press Releases 2008年8月28日	Blood誌のprepublished onlineに掲載されたヒツジにおける研究によると、輸血によるBSE伝播のリスクは驚くほど高い。エジンバラ大学で行われた9年間の研究は、BSEまたはスクレイピーに感染したヒツジからの輸血による疾病伝播率を比較した。その結果、BSEおよびスクレイピーとも輸血によりヒツジに効率よく伝播された。症状を呈する前のドナーから採取された血液によっても伝播することが示された。
388	2009/02/25	80930	CSLベリング	人血清アルブミン 破傷風抗毒素 フィブリノゲン加第XIII因子 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	有	有			
389	2009/02/25	80931	味の素	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	エボラ出血熱	OIE Press Release 23Dec2008	ブタにおけるEbola-Restonウイルスの初めての検出: フィリピンにおいてブタからEbola-Restonウイルスが検出されたことを受けて、フィリピン政府がFAO、OIEおよびWHOに専門家の派遣を要請した。2007年および2008年にNueva EcijaおよびBulacanの農場においてブタの死亡が増加したことからフィリピン政府による調査が開始され、ブタ繁殖・呼吸器障害症候群(RRRS)およびEbola-Restonウイルス感染が確認された。フィリピンのサルにおいては感染が確認されている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要	
												エボラ出血熱	ProMEDmail 20090123.0293	フィリピンにおいて少なくとも一人が検査でEbola-Restonウイルス陽性: Ebola-Restonウイルス感染は2008年に2ヶ所のブタ農場で発見され、これらの農場の労働者50人以上がウイルスに曝露したが、検査陽性は1例のみで有、症状は出ていない。ブタからヒトへの感染は今回が初めて。2009年1月23日	
												エボラ出血熱	WHO/EPR 2009年2月3日	フィリピン政府は2009年1月23日に感染ブタと接触したと思われる一人がエボラウイルス・レストン株 (ERV) の抗体 (IgG) 検査で陽性となったことを伝えたが、1月30日にさらに4人がERV抗体検査陽性となったことを発表した。5人は健康状態もよく、いずれも感染ブタに直接接触したことでウイルスに暴露された可能性がある。	
390	2009/02/26	80932	ジェンサイム・ジャパン	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	ヒト培養細胞	宿主細胞は、American Type Culture Collection (ATCC) から入手した、ヒト繊維肉腫由来細胞 HT-1080 である。	有効成分	無	無	無				
391	2009/02/26	80933	ジェンサイム・ジャパン	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無				
392	2009/02/26	80934	ジェンサイム・ジャパン	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	米国	製造工程	無	無	無				
393	2009/02/26	80935	ジェンサイム・ジャパン	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	トリブシン	ブタ臓臓	デンマーク、米国、カナダ	製造工程	無	無	無				